

年頭所感

2017年1月4日

新日鉄住金化学株式会社
代表取締役社長 太田克彦

世界で評価される 先端技術製品を世に問う **innovative** で魅力的な会社に

初めに

みなさん、明けましておめでとうございます。まずは、今年一年間の皆様とご家族のご多幸をお祈りしたいと思います。

■経営環境について

世界には四つの大きな変化

日本経済は緩やかな成長を期待

昨年もまた、激動の一年でありました。私は四つの大きな変化が起きていると感じています。今後、これらの変化の当社事業への影響について、注意深く見ていく必要があると思います。第一の変化は、英国の国民投票によるEU離脱決定と、米国のトランプ氏の大統領選挙当選に象徴される、格差の不満が政治を動かすという動きです。今後、仮に他の資本主義諸国にも「グローバル化」よりも「自国優先」の流れが伝播し、世界の貿易と人の移動が縮小に向かえば、世界経済にとってはマイナス要因になると懸念されています。

第二は、米国にトランプ政権が誕生することによって世界の金融マーケットが転換したことです。トランプ次期大統領は、GDP 4%成長を目標に掲げて、公共投資を増額する政策を打ち出しており、公共投資牽引型の経済成長への期待が高まっています。この結果、株価も米ドルも大きく上昇しました。また米国長期金利は上昇に転じ、日本の長期金利もマイナス圏を脱しました。このように、トランプ政権への期待から世界の金融為替市場に大きな変化が現れましたが、今後も振幅の大きな動きが続く可能性があり、実態経済への影響も注視していく必要があると思います。

第三は、OPECの減産合意による原油価格の底打ちです。また、石炭や鉄鉱石、あるいは銅、錫、亜鉛などのベースメタルについても、需給バランスが改善し、上昇が見られます。資源価格が緩やかであっても上昇に転じたことは大きな変化であり、当社にとっても全体としてはプラスの効果をもたらすと期待しています。

第四は、IoT（モノのインターネット）やAI（人工知能）の活用が加速されたことです。これらの情報処理技術と生産やサービスとの革新は、世の中を大きく変える力を持っており、当社も操業管理、安全管理、設備管理等の分野において、可能な範囲でこの技術を取り込んでいかなければ、競争力を維持できなくなります。

このような中で、今年の世界経済は、3%台のGDP成長が予想されています。一方で日本経済ですが、GDP 1%台の成長が期待されます。2020年の東京オリンピックまでは、底堅い経済環境が続くと見て良いと思っています。

■当社の2016年の振り返り

個々の事業は徐々に上向き

「大河内賞」など嬉しい出来事も

さて、2016年の当社の業績ですが、個々の事業を見ると、徐々に上向いてきました。しかしながら、会社全体の収益水準は、新日鐵住金(株)の5つの事業セグメントのひとつとして、連結経営に貢献する水準とは言えず、新日鐵住金(株)の株主から見ても化学事業セグメントの存在感は小さなものに映っていると思います。

一方で、2016年にはうれしい出来事も幾つかありました。第一は、エスパネックスの開発・事業化で「大河内記念生産特賞」を受賞したことです。当社の機能材料分野における技術力の高さが、世界的に認知されたと言えます。これまでの関係者の努力に拍手を送りたいと思います。二番目は、このエスパネックスとエスファインが販売の新記録を更新したことです。いずれも当社の得意とする芳香族に由来する技術をベースとした製品であり、当社の独自技術が機能材料として開花し、世界の主要顧客から高く評価されました。今後とも、能力と品質を向上させ、「世界No.1評価」を得られるようにしていきたいと思っています。第三としては、大手の化学系会社とともに、先端素材高速開発技術研究組合の公募に当選し、産総研と共同研究を開始したことです。限られた経営資源しか持たない当社にとっては、オープンイノベーションに期待するところ大であり、新たな機能性材料の研究加速が期待されます。

■2017年に期待すること

2017年中計を仕上げ

2020年中計の検討開始

次に、2017年に期待することを申し上げます。2017年度は、中期経営計画の最終年度に当たります。まずは、増収増益の計画を確実に実現できるように、年度予算審議の中で実行計画を策定したいと思います。

また、2020年度を最終年とした新しい中期経営計画の議論を始めます。それぞれの事業部や機能部門で議論を行い、具体的な内容を積み上げた上で、次の三年間の「旗印」を定めたいと思います。世の中では、日本の化学産業は「新たな化学の時代」に入ったという評価があります。事実、大手化学会社は昨年中に競うように中期経営計画を公表しましたが、その多くは投資金額を大幅に積み増しています。当社は地に足の着いた議論を行うことにしますが、会社である以上、利益成長を目指すことは当然であります。当社独自の技術の蓄積が活用でき、既存の事業分野に近く、生まれは小さくても世界的に成長が望める分野を伸ばしていきたいと思っています。こうした認識を共有化した上

で、2020年中期経営計画の議論をスタートさせましょう。

幸い、財務体質は良好です。厳格な投資判断プロセスは必要ですが、機会を逃さないスピーディな経営判断も必要です。10年、20年先を見据えながら、山に苗木を植えるように、将来の利益成長につながる投資は行っていくつもりです。

各事業とも基盤強化・効率化を実行

研究開発部門の活躍に期待

各事業について、ひと言ずつ期待を述べます。具体的な課題については、各事業部長からお聞き下さい。まず、コールケミカル事業ですが、何と云っても、立上げ途上の中国事業に将来の目途を付けることです。また、ニードルコークスを始めとしたタール蒸留事業に関しては、原油価格の反転等を反映し市況は徐々に回復するとの認識を持って、生産・販売を行うことが必要です。また、新製品開発等の長年の課題にも答えを出して、拡販に結び付けていきたいと思えます。総じて、コールケミカル事業はもうしばらく守りの時期が続きますが、この間に地力を付けて、再び「世界No.1」の石炭化学会社と胸を張れるように、事業の再生を実現しましょう。

化学品事業は、足元では市況にも恵まれています、世界を見渡せば能力増強の動きもあり、中期的には再び厳しい競争環境に巻き込まれる可能性もあります。今のうちに効率化を徹底的に実行していく必要があります。安定生産を第一に、推進中の設備案件を安全に立ち上げるとともに、独自製品の拡販に努力し、収益の向上を図りたいと思えます。

機能材料事業は、エスパネックスとエスファインに次ぐ、有機EL発光材料など第三、第四の柱を作っていかなければなりません。研究者はラボを飛び出し自ら顧客に出向き、顧客の新たなニーズをいち早く把握し、新製品の事業化を実現することを期待します。また、顧客と同じ目線（加工条件）での材料評価力を備えなければ、単なる材料提供者に止まってしまいます。信頼されるパートナーとしての地位を確かなものになりたいと思えます。

エポキシ事業は、地道な顧客対応の継続と、成長分野での拡販の二面作戦が必要です。CFRP等の複合材料は大手企業も参入する激戦区です。当社の強み、当社の能力を見極めて分野を絞り、対応を進めたいと思えます。

以上述べたことは、研究開発部門の活躍に掛かっていると言っても過言ではありません。総合研究所は、材料開発機能に加えて、評価・解析機能やプロセス開発機能を備えていることが強みの一つです。各開発センター間の連携を深めることで、この強みを最大限に活かし、厳しい競争に勝ち切る原動力になってもらいたいと思えます。そのために、新日鐵住金㈱のコーポレートラボ機能とも連携を強化し、それぞれの研究者が持つポテンシャルを十分に発揮して下さい。さらには、目の前の競争だけでなく、今後の技術動向をよく見極めて、将来への取り組みも怠りなく進めていくことを望みます。

最後に

石炭化学と機能材料を両輪に成長

安全と心身の健康を何より優先

当社は、製鉄プロセスから出るタールと粗製ベンゼンを原料とした石炭化学分野と、芳香族と炭素の技術を基礎としたエポキシ樹脂を含む機能材料分野を両輪とした、技術立社を理念に掲げています。今後も、常に **innovative** であり続け、それぞれの事業分野において、**global edge** 製品（世界的に評価される先端技術商品）を世に問い、社会の発展に貢献する会社であるとともに、社員にとっても働き甲斐のある魅力的な会社にしていきたいと思えます。

最後に、皆さんの安全と、ご家族も含めた心身の健康は何よりも優先してください。幸い大きな災害には至っておりませんが、軽微な労働災害は発生しています。小規模なヒューマンエラーはいずれ大規模事故につながる心配があります。指差呼称の徹底など、管理職が先頭に立って、あらためて基本動作に立ち返っていただくことをお願いします。また、環境面での配慮や業務ルールの遵守は、会社運営の基本であることを申し上げて、私の挨拶とします。

以 上